

知床半島の維管束植物フロラから 13 種を除外する

内田 暁友^{1*}・浅沼 孝夫²

1. 099-4113 北海道斜里郡斜里町本町 49-2, 斜里町立知床博物館 2. 086-1751 北海道目梨郡羅臼町字峯浜 524, (有) ククマシステムデザイン

Thirteen Vascular Plant Species Excluded from the Flora of Shiretoko Peninsula, Eastern Hokkaido

UCHIDA Akitomo^{1*} & ASANUMA Takao²

1. Shiretoko Museum, 49-2 Hon-machi, Shari, Hokkaido 099-4113, Japan *✉akitomo-u@apost.plala.or.jp 2. Kukuma System Design Ltd., 524 Minehama, Rausu, Hokkaido 086-1751, Japan

We examined the voucher specimens of vascular plants collected from Shiretoko Peninsula. As a result, we excluded thirteen species from the flora list of the area: *Gymnocarpium jessoense*, *Tofieldia okuboi*, *Lloydia serotina*, *Listera yatabei*, *Festuca takedana*, *Hylotelephium pluricaule*, *Geranium onoei* var. *onoei* form. *yezoense*, *Lotus corniculatus* subsp. *japonicus*, *Gaultheria adenothrix*, *Pedicularis yezoensis*, *Chrysanthemum yezoense*, *Cirsium pendulum* and *Sium suave*.

精度が高く、信頼できる地域インベントリーは環境変動の把握や稀少生物の保護、外来生物の管理を行う上で欠かせない。佐藤ら (1985) などの過去に行われてきた植物調査の結果、知床半島の維管束植物のフロラについては比較的高い精度で明らかになっている。しかし、これまで様々な文献において記録された植物種には分布が疑わしいものが含まれていた。そのため、植物リストの精度を向上させるためには証拠標本の探索と再検討が必要であった。

これまでに知床半島で採集された維管束植物の腊葉標本の多くは北海道大学総合博物館 (SAPS) に収蔵されている。しかし、高橋 (2010) は佐藤ら (1985) で記録された維管束植物 817 種のうち 186 種については SAPS に証拠標本がないことを明らかにした。

そこで筆者らは、国内の主要なハーバリウムで証拠標本の探索とその再検討を行った。その結果、これまでに知床半島から記録されていた種のうち 13 種について、植物リストから一旦除外すべきで

あることが分かったので報告する。

調査は 2012 年 3 月に京都大学理学研究科および京都大学総合博物館 (KYO)、東京大学理学研究科附属植物園本園および東京大学総合研究博物館 (TI)、国立科学博物館植物研究部 (TNS)、北海道大学総合博物館 (SAPS)、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園 (SAPT)、知床森林センター (当時、現在は知床森林生態系保全センター) のハーバリウムで行った。閲覧の便を図って下さった各ハーバリウム管理者の皆様に厚くお礼申し上げる。本調査は環境省の平成 23 年度知床世界自然遺産地域植物相調査業務の一環として行われた。

除外する種

1. *Gymnocarpium jessoense* (Koidz.) Koidz. イワウサギシダ

館脇 (1954) は岩宇別の林地から本種を記録している。しかし著者らは本調査において証拠標本を確認できなかった。

知床半島には近縁のウサギシダ *G. dryopteris* (L.) Newmanが見られるが、館脇(1954)はイワウサギシダのみ記録している。SAPSには1951年7月15日にイワウバツで採集されたウサギシダの標本がある(SAPS 021999)。このことから、本種の記録はウサギシダであった可能性が高い。

2. *Tofieldia okuboi* Makino ヒメイワショウブ

鮫島・佐藤(1981)は知床沼北岸の湿原から本種を記録している。しかし著者らは本調査において証拠標本を確認できなかった。知床半島には近縁のチシマゼキショウ *Tofieldia coccinea* Richards. var. *coccinea*が分布し、SAPSには知床沼周辺で採集されたチシマゼキショウの標本が複数ある。このことから、本種の記録はチシマゼキショウであった可能性が高い。

3. *Lloydia serotina* (L.) Rchb. チシマアマナ

荒澤(1984)は本種を羅臼岳と硫黄山の崖地から記録している。しかし著者らは本調査において証拠標本を確認できなかった。

4. *Neottia puberula* (Maxim.) Szlach. タカネフタバラン

佐藤ら(1985)は知西別岳において本種を記録している。証拠標本(SAPS 007861)を検討したところ、非開花個体であったが葉の形状からはミヤマフタバラン *Neottia nipponica* (Makino) Szlach.であった。

5. *Festuca takedana* Ohwi タカネソモソモ

滝田(2001)は羅臼岳で本種を記録している。証拠標本(SAPT)を検討したところ、ミノボロ *Koeleria macrantha* (Ledeb.) Schult. & Schult. f.であった。

6. *Hylotelephium pluricaule* (Maxim.) H. Ohba カラフトミセバヤ

大原(1964)は岩宇別の海岸の岩壁で、荒澤(1984)は知床岬、アウンルイ、文吉湾の海岸の岩壁で本種を記録している。しかし著者らは本調査

において証拠標本を確認できなかった。本種の記録はイワレンゲ属 *Orostacys* の非開花個体を誤認した可能性が高い。

7. *Geranium onoei* Franch. & Sav. var. *onoei* form. *yezoense* (H. Hara) Yonek. グンナイフウロ

荒澤(1984)は本種を知床岬の草地から記録した。しかし著者らは本調査において証拠標本を確認できなかった。本種の記録はチシマフウロ *Geranium erianthum* DC. form. *subumbelliforme* (R. Knuth) Sugim. を誤認した可能性が高い。

8. *Lotus corniculatus* L. subsp. *japonicus* (Regel) H. Ohashi ミヤコグサ

武田(1967)がオロンコ岩で、また荒澤(1984)が知床岬と真鯉の海岸の岩壁において本種を記録している。しかし著者らは本調査において証拠標本を確認できなかった。

9. *Gaultheria adenothebrix* (Miq.) Maxim. アカモノ

鮫島・佐藤(1981)が本種を記録している。しかし著者らは本調査において証拠標本を確認できなかった。

10. *Pedicularis yezoensis* Maxim. エゾシオガマ

荒澤(1984)は本種を羅臼岳の山林から記録している。しかし著者らは本調査において証拠標本を確認できなかった。

11. *Chrysanthemum yezoense* Mack. コハマギク

館脇(1954)はチシマコハマギク *Chrysanthemum arcticum* L を岩宇別とアマナの海岸の岩壁において記録している。また荒澤(1984)はコハマギクをアウンモイ、アウンルイと知床岬の岩壁から、チシマコハマギクをアウンモイ、アウンルイ、文吉湾および知床岬の岩壁において記録している。しかし佐藤ら(1985)は知床半島の維管束植物リストにおいて館脇(1954)を引用し、かつ佐藤ら(1985)の調査によっても現地でも確認できた種とした上で、和名は「コハマギク、チシマコハマギク」と併記し、学名を *C. yezoense* Mack. として記載した。

コハマギクとチシマコハマギクの2分類群の関係については過去に様々な見解があったが、現在はそれぞれコハマギク *C. yezoense* Maek., およびチシマコハマギク (アキノコハマギク) *C. arcticum* L. として別種に扱われている (eg. Ohashi & Yonekura 2004; いがり 2007).

筆者らは本調査においてチシマコハマギクの証拠標本を確認することができたが (KYO), コハマギクについては確認できなかった. このことから佐藤ら (1985) による「コハマギク, チシマコハマギク」という和名表記はこれら2分類群を1種として扱い, 学名は *C. yezoense* Maek., 和名はコハマギクを採用することを意味すると考えられる.

なお, Ohashi & Yonekura (2004) は日本産の *C. arcticum* L. を2亜種に分け, 知床半島に分布するものをアキノコハマギク *C. arcticum* L. subsp. *arcticum* とし, チシマコハマギクの和名は根室半島, クリル諸島, 南サハリンに分布する *C. arcticum* L. subsp. *yezoense* (Maek.) H. Ohashi & Yonek. にあてている. そのため, 知床半島においてはチシマコハマギクという和名の使用が広義のチシマコハマギク *C. arcticum* L. の意味であるのか, 狭義のチシマコハマギク *C. arcticum* L. subsp. *yezoense* (Maek.) H. Ohashi & Yonek. の意味であるのかについて注意が必要である.

12. *Cirsium pendulum* Fisch. ex DC. タカアザミ

荒澤 (1984) は知床岬の草原において本種を記録している. しかし著者らは証拠標本を確認できなかった.

13. *Sium suave* Walter ヌマゼリ

館脇 (1968) は知床五湖においてヌマゼリを記録している. 証拠標本 (知床森林センター, 当時) を検討したところ, ドクゼリ *Cicuta virosa* L. であった.

除外しない種

コアマモ *Zostera japonica* Asch. & Graebn., ユキザサ *Maianthemum japonicum* (A. Gray) LaFrankie, オハグロスゲ *Carex bigelowii* Torr. ex Schwein., エ

ゾノウワミズザクラ *Padus avium* Mill., ツリフネソウ *Impatiens textorii* Miq., エゾオオサクラソウ *Primula jesoana* Miq. var. *pubescens* (Takeda) Takeda & H. Hara, マタタビ *Actinidia polygama* (Siebold & Zucc.) Planch. ex Maxim., カンボク *Viburnum opulus* L. var. *sargentii* (Koehne) Takeda の8種についても本調査の対象としていたが, これらの種については調査期間中に全てのハーバリウムで標本調査を終えることができなかった. そのため, 植物リストから除外することの可否については保留した.

引用文献

- 荒澤勝太郎. 1984. 知床の草木花: 花の楽園をたずねて. 207 pp. 北海タイムス社, 札幌.
- いがりまさし. 2007. 日本の野菊. 山溪ハンディ図鑑11. 279 pp. 山と溪谷社, 東京.
- 大原準之助. 1964. 知床半島の植物瞥見. 北見林友125: 6-11.
- Ohashi H. & Yonekura K. 2004. New combination in *Chrysanthemum* (Compositae-Anthemideae) of Asia with a list of Japanese species. J. Jpn. Bot. 79: 186-195.
- 鮫島惇一郎・佐藤謙. 1981. 知床半島現存植生図概説: 知床半島自然生態系総合調査. 65 pp. 北海道生活環境部自然保護課, 札幌.
- 佐藤謙・西川恒彦・酒井聡樹・松井淳・甲山隆司・小池文人・小林正寛・伊藤浩司. 1985. 遠音別岳原生自然環境保全地域と知床半島全域の維管束植物相. 環境庁自然保護局 (編), 遠音別岳原生自然環境保全地域調査報告書. pp. 115-172. 環境庁, 東京.
- 高橋英樹. 2010. 知床半島産維管束植物標本データベース. 知床財団 (編), 平成21 (2009) 年度知床世界自然遺産地域生態系モニタリング調査業務報告書: 環境省請負事業. pp. 78-202. 知床財団, 斜里.
- 武田久吉. 1967. 知床日記. 北海道教育庁振興部文化課編 (編), 知床半島: 特別調査報告. 北海道文化財シリーズ9. pp. 20-30. 北海道教育委員会, 札幌.
- 滝田謙讓. 2001. 北海道植物図譜. 1,452 pp. 自

- 費出版, 釧路市.
- 館脇操. 1954. 知床半島の植生. 81 pp. 北見営林局, 札幌.
- 館脇操 (監). 1968. 北見の植物とともに: 川代善一遺稿集. 266 pp. 林野弘済会北見支部, 札幌.